

太田城水攻めと大規模弥生集落

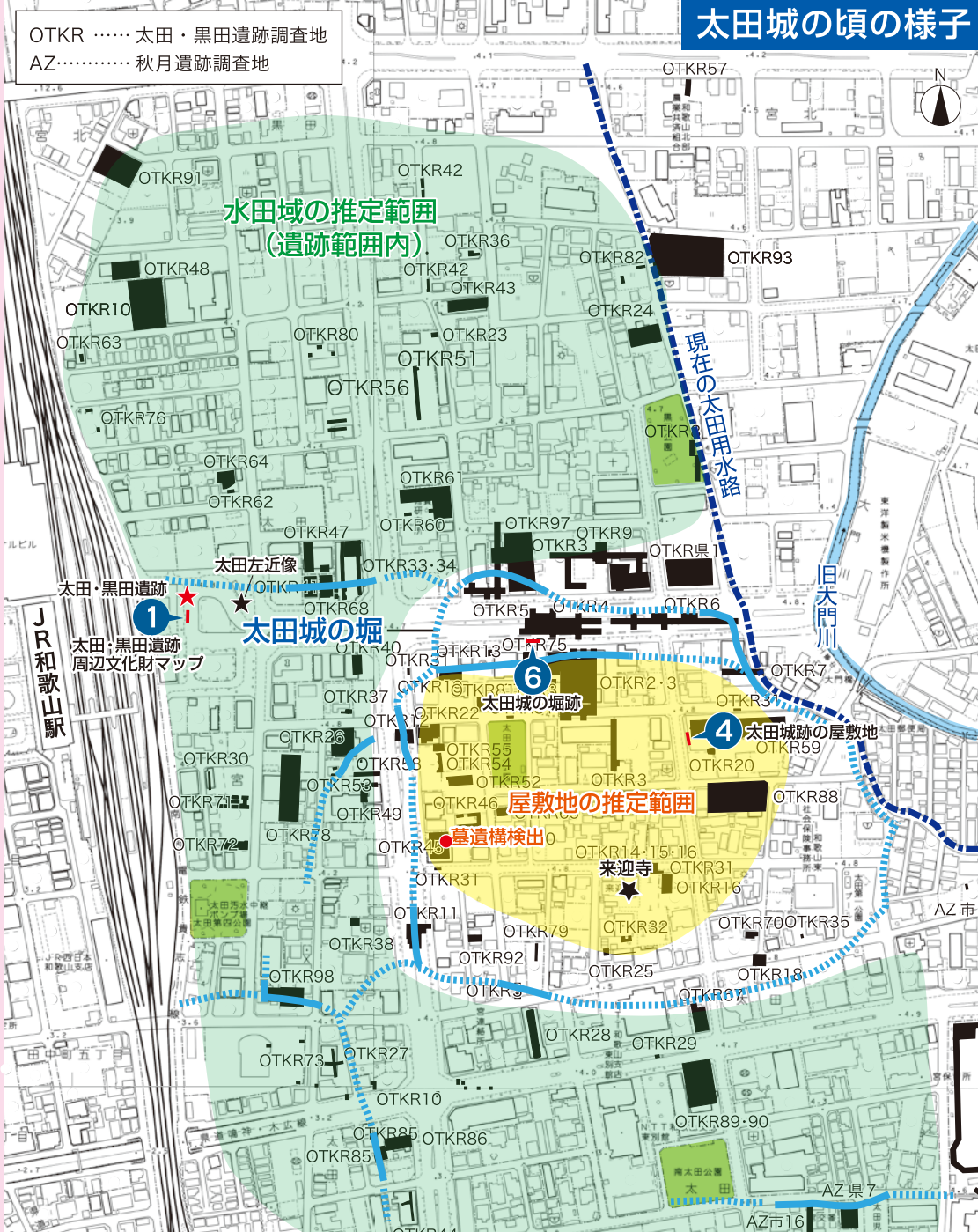
太田・黒田遺跡周辺文化財マップ



総光寺由来并太田城水責図（部分）（市指定文化財、惣光寺蔵）



太田・黒田遺跡 竪穴建物



おお だ じょうあと 天正13(1585)年、羽柴秀吉によって太田城跡 水攻めされたことで有名で、備中高松城・忍城の水攻めとともに日本三大水攻めとされています。発掘調査により太田城跡の北・西・南側で堀の可能性のある大溝が確認されました。太田城は大溝や遺構・遺物の分布状況から東西約450m×南北約350mの規模をもつ城で、

⑥ 太田城の堀跡

発掘調査では太田城跡の北・西・南側で堀とみられる大溝が発見されており、北・西側には二重に堀がめぐっています。太田城の北側にめぐる堀は幅約10m、深さ約3mと規模の大きなもので、堀のなかからは鉄砲玉に使用されたとみられる鉛のインゴットが出土しています。堀の上部は水攻め直後に埋められており、その後は水田に変わっています。



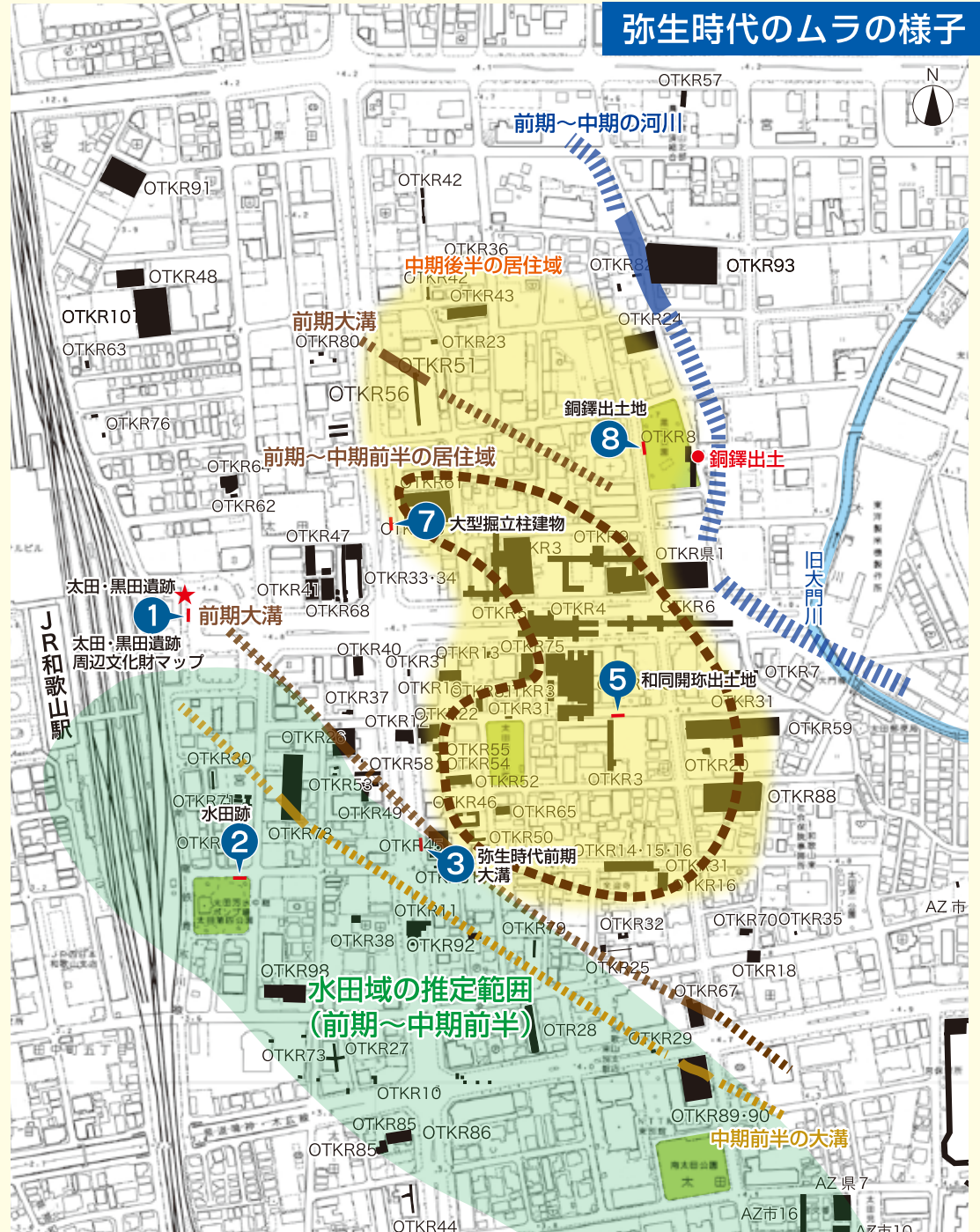
太田城の堀(上部は埋め立てられている)

④ 太田城跡の屋敷地

太田城跡については多数の発掘調査が実施されているものの、太田城内部の様子についてはほとんど明らかになっていません。一部太田城跡の東側で行われた発掘調査において、溝で区画された空間に石組みの井戸が掘られており、屋敷地の様子が判明しています。また、太田城跡の西端では男性が埋葬された墓も見つかっています。



太田城跡の屋敷地(右が北)



⑨ 太田城水攻め堤跡(県指定史跡)

太田城水攻めの際に築かれた堤防の跡で、中黒田堤防など水攻め堤は水攻め後もいくつかの地点で壊されずに残っていましたが、現在は出水に2箇所堤の残存部分が残っています。そのうち、南側の堤について発掘調査を実施しました。その結果、残存している土盛は幅約24m、長さ約66m、高さは隣地水田との比高から判断すると2.6m程あり、内側(太田城側)に小段をもつと、土盛内側(太田城側)に山状に築いた核をもち、内側が高く外側に向かって傾斜するように土盛がおこなわれていることが明らかになりました。



県史跡指定地(右が太田城側)

⑩ 水攻め堤の土取穴(友田町遺跡)

JR和歌山駅西口から150m西側へ離れた地点で行われた発掘調査で、中世末期に掘削された短辺20m、長辺100m以上、深さ0.8～1.5mを測る大規模な穴がみつかりました。この調査地点は、太田城水攻め堤の想定地のすぐ西側の地点にあり、穴が掘削された時期が太田城水攻めの時期と近いことから、発見された大規模な穴は水攻め堤を構築する際の土取穴の可能性が想定されます。



穴の底には掘削の跡とみられる凹凸がある

太田・黒田遺跡

太田・黒田遺跡は和歌山平野南部のほぼ中央に位置します。このあたりは、縄文時代早期(11000～7000年前)には海水が侵入しており海のなかでした。約4000年前には海から干潟へと移り変わりその後徐々に陸地化していきます。人が住み始めたのは弥生時代前期の中頃(約2400年前)になります。太田・黒田遺跡では、居住域は集落のなかでも比較的土地が高く安定した場所にあり、西側のやや低くなった部分に水田域が広がっていたと考えられます。また、居住域と水田域の間には水路または区画溝と考えられる大溝が掘られていました。居住域からは多数の住居や土器、石器、特別なものでは銅鐸も出土しています。このような特徴をもつムラは太田・黒田遺跡をのぞくと和歌山平野南部にはないため、この地域の中心的なムラであったと考えられます。



イメージ図

⑧ 銅鐸出土地

この銅鐸は、昭和45年(1970)に遺跡東端の水路の改修工事に際して出土しました。高さ約30cmの弥生時代中期の外縁付紐1式の4区装束文銅鐸で、結晶片岩製の舌が銅鐸内側で発見されています。この銅鐸は、島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸のうちの4口と同范であることが確認されています。和歌山平野の中心集落から出土しており、弥生時代における青銅器の流通状況を知るうえでも貴重なものとして、県の指定文化財に指定されています。



銅鐸と舌

② 水田跡

遺跡の西側を中心に水田域が広がっていた状況が発掘調査で確認されています。弥生時代頃には遺跡の西側は緩やかな斜面になっていたため、その傾斜を利用して水田耕作を行っていました。弥生時代の水田は、今の水田とくらべて田んぼの区画が小さいのが特徴で、区画を小さくすることにより管理しやすかったと考えられます。



白線の部分が畦

③ 弥生時代前期大溝

当時の人々が住んでいた微高地の縁辺部に掘削された大溝で、この溝を境に西側は水田域となっています。大溝が掘削されるのは弥生時代前期の終り頃で、その後も継続して同じ方向の溝が少し場所を変えながら掘削されている様子が発掘調査で明らかになっています。弥生時代前期の大溝の規模は、幅3.6～3.9m、深さ1.2mで溝の断面形状は逆台形を呈しており、溝の規模や形状から環濠あるいは居住域と水田域とを区画する溝の可能性が想定されます。



2本の溝が並行して掘削される

⑤ 和同開珎出土地

奈良時代の井戸から発見された銅銭です。銅銭は割りぬきの井筒を納めた直径2.0m、深さ2.9mの井戸の底から出土したことから、これらの銭貨は井戸に埋納されたものであったと考えられます。出土した銅銭は皇朝十二銭である和同開珎が42枚、万年通宝が4枚の合計46枚からなります。発掘調査で出土した一括資料としては和歌山県内では最多例であり、全国的にみても貴重な事例のため、市の指定文化財に指定されています。



発行 和歌山市 文化振興課
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地
TEL073-435-1194 FAX073-435-1294
平成31(2019)年3月発行
令和5(2023)年増刷
印刷 株式会社ウイング

太田・黒田遺跡周辺文化財マップ

太田城関連文化財をめぐる 1～1.5時間
 (①JR和歌山駅→来迎寺(小山塚)→毘沙門天→④太田城跡の屋敷地→
 ⑥太田城の堀跡→⑨太田城水攻め堤)
 JR和歌山駅から⑪古墳時代の用水路まで約2.5Km 自転車で約15分
 JR和歌山駅から⑭秋月遺跡まで約1.5km 自転車で約10分

凡 例
 学校 病院 郵便局 コンビニ 銀行 交番 ガソリンスタンド 公衆トイレ

遺跡説明板
 赤線で示した遺跡範囲は概略です。

東西連絡地下通路
 バスのりば JR和歌山駅
 レンタルサイクル(わかちか広場)

0 100 200 300 400 500m

また、寺域内には太田城水攻めにより戦死した武将の首を埋葬した3つの首塚くびづかのうちのひとつである小山塚の石碑が移築されています。